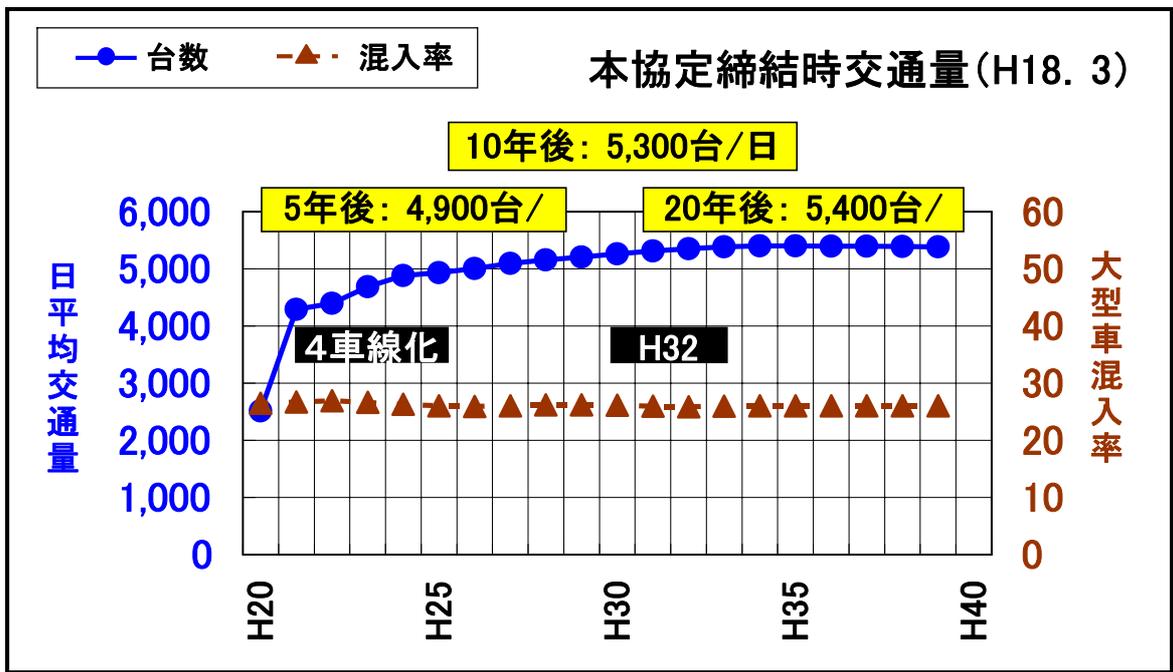


飛騨トンネルの概要

1. 位置図



2. 推計交通量



3. トンネルの概要

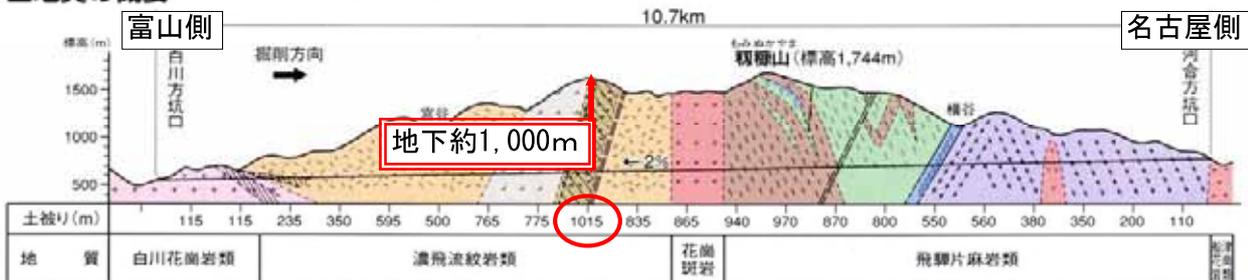
飛騨トンネルは、東海北陸道・飛騨清見IC～白川郷IC間に位置する全長10.7kmの高速道路トンネルで、東海北陸道（延長185km）最後の未開通区間です。平成9年7月の先進坑掘削開始から本坑貫通にいたるまでに、**9年6ヵ月もの歳月**を要し、「**最後の難関**」と呼ばれています。

平成19年1月13日に本坑が貫通しました。現在は、トンネルの仕上げ工事や、舗装・施設工事を進めています。



完成すれば、国内の道路トンネルとしては、**2番目**の長さになります。

■地質の概要



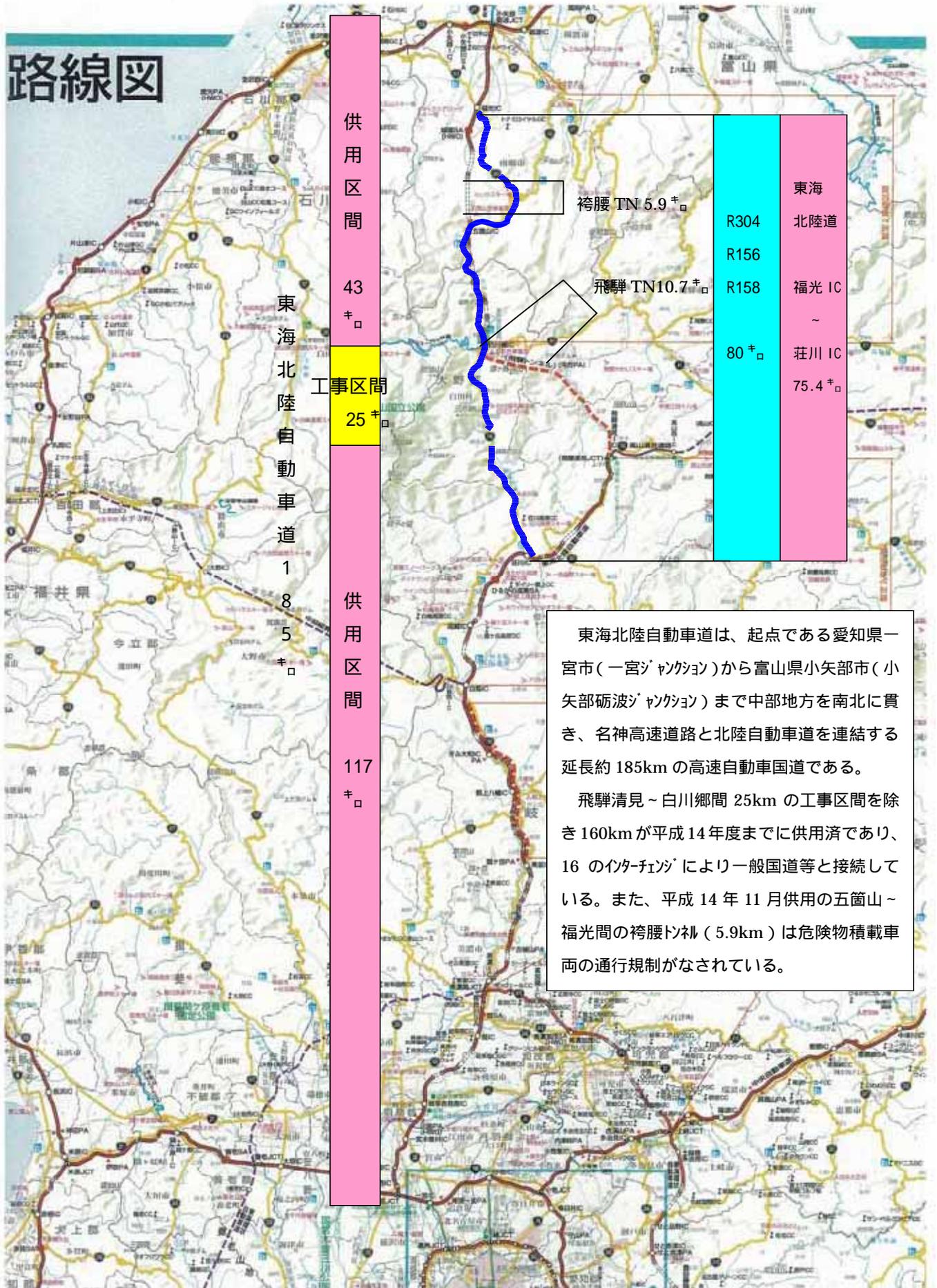
最大で**地下1,000m**もの場所を掘削しており、最新の探査技術をもってしても地質構造が明確に把握できなかったことや、**初め**で掘られる山だったことなどから、**未知への挑戦**となりました。

名古屋側から富山側へ向けて**2%の下り勾配**となっており、名古屋側からの掘削は「**突っ込み施工**※」となり、非常に難しい工事となりました。

不良な地山の区間はNATM工法（現在のトンネル工事の主流の工法）で掘削し、良好な区間はTBM（Tunnel Boring Machine）で掘削しました。TBMは直径12.84mで**世界最大級**です。



路線図



供用区間

43
キロ

工事区間

25
キロ

供用区間

117
キロ

東海北陸自動車道 185.5
キロ

袴腰 TN 5.9 キロ

飛騨 TN 10.7 キロ

R304	東海
R156	北陸道
R158	福光 IC
80 キロ	～
	荘川 IC
	75.4 キロ

東海北陸自動車道は、起点である愛知県一宮市（一宮ジャンクション）から富山県小矢部市（小矢部砺波ジャンクション）まで中部地方を南北に貫き、名神高速道路と北陸自動車道を連結する延長約185kmの高速自動車国道である。

飛騨清見～白川郷間25kmの工事区間を除き160kmが平成14年度までに供用済みであり、16のインターチェンジにより一般国道等と接続している。また、平成14年11月供用の五箇山～福光間の袴腰トンネル（5.9km）は危険物積載車両の通行規制がなされている。

